

# 三陸新報

2019年(平成31年)2月12日 火曜日

## 木のぬくもりいっぱい

気仙沼 宮崎から遊具寄贈

気仙沼児童センターと鹿折児童館に9日、宮崎県のNPO法人「宮崎文化本舗」(石田達也代表)から同県の特産「鉄肥杉(おびすぎ)」で造られたジャングルジムとブロックがセットで贈られた。同法人は、スギの生産量が28年連続日本一を誇る宮崎県で、子供たちが利用する施設に木製遊具などを贈り、幼少期から木に親しんでもらう活動を展開。今回、親交のある「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」(臼井壯太郎代表)との縁で寄贈が実現した。



スギのおもちゃで遊ぶ子供たち

この日は、「みやざきから木のおもちゃがやってくる!」と題して、寄贈式と遊びを兼ねたイベントを同センターで開催。気仙沼、宮崎の関係者と親子ら約50人が参加した。

石田代表は「宮崎の木で気仙沼の子供も大人も遊んでもらえればうれしい。気仙沼と宮崎の交流がこれからも続いていくことを願っている」とあいさつした。

続いて、子供たちが幕を引き、木製のジャングルジム「ころも木」とブロック「からからつみき5000」が登場。市観光キャラクター「海の子ホヤぼーや」も駆け付

けて、盛り上がった。寄贈式が終わると、子供たちはおもちゃへ一目散。母親に手を引かれながら滑り台をしたり、木のぬくもりが感じられる積み木を楽しむなど、遊びに夢中になっていた。

気仙沼小学校4年の佐々木咲良さん(10)は「おもちゃはスギの良い香りがして、手触りも好き。友達と一緒に大切に使いたい」と喜んだ。